No. 130 Nov 2025

AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社
〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel　042-725-6250
fax　042-785-4332
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

ナイジェリア初渡航

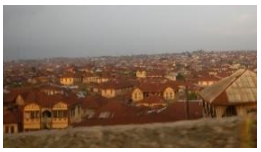
「コメ種子生産拡大及び品質向上のための能力強化プロジェクト（JICA）」に参加し、5 月末から 2 か月間、ナイジェリアに初渡航した。ナイジェリアは西アフリカのギニア湾北岸に位置する国で、アフリカ最大の人口、2 億 3 千万人を擁する。産油国でもあり、2024 年の GDP は 1,878 億ドルでアフリカ 4 位だが、これまでに何度もアフリカ 1 位の GDP を記録した経済大国である。

農林水産業も GDP の 24%を占め、人口の 6 割が従事する主要産業だ。イモ食文化圏で、キャッサバ 6,000 万トン、ヤムイモ 5,000 万トンを生産するので、コメの生産量 834 万トンは小さくみえるが、アフリカ最大のコメ生産国である。しかし、自給は達成しておらず、230 万トンを輸入に頼る。単収も 1.86 t /ha とアフリカの平均より低いため、人口と共に増加する需要を満たすには、生産性の向上が課題となってる。こうした背景から、プロジェクトは、西南部のオヨ州と中西部のナイジャ州を対象にコメ生産の基盤となる種子の生産量と品質の向上を目指し活動する。初年度の今年はベースライン調査を中心に活動している。

国立モスク

国立教会

今回の渡航で、最初に訪れた首都のアブジャは、国土のほぼ中心に位置し、1991 年に旧首都のラゴスから、遷都された比較的新しい街だ。C/P 機関の連邦農業食料安全保障省や国立農業種子評議会などの本部はこの街にある。日本の建築家丹下健三がマスタープランを設計したという整然とした街並みだ。イスラム教徒が 50.5%、キリスト教徒が 48.2%というお国柄を象徴し、街の中心部に国立モスクと国立教会があり、ビルの間から見える金色の屋根や高い塔が印象的だった。


建物が立ち並ぶイバダンの街。

プロジェクトの活動拠点はオヨ州の街イバダンである。国内第 3 の都市だが、高層ビルは見られず、中層、低層の建物がひしめき合い、人があふれ、活気に満ちていている。古くはイバダン王国の首都だったということで、滞在中の 7 月に、Olubadan と呼ばれる伝統的君主が亡くなったと聞き、現在も伝統的王位を継承していることを知った。プロジェクトは国立農業研究所（NCRI）イバダン支所に事務所を構えている。地理的には畑作地帯であり、稲作は多くはないが、国際熱帯農業研究所（IITA）やその敷地内に稲の国際研究機関、アフリカ・イネ・センター（Africa Rice）の支所もあり、稲作に関するリソースが充実していることは、有益である。

ナイジャ州の水田地帯

プロジェクトのもう一つの対象州のナイジャ州のバデギには、C/P 機関である NCRI の本部があり、近隣の街ビダに 1 週間滞在した。農村地帯であり、街を少し離れると水田がみられ、農家が盛んに稲作に取り組んでいる様子が感じられた。ナイジャ州は治安上、JICA 関係者の渡航が制限されている地域だが、短い間でも稲作の実情を見ることができ、有益であった。

ナイジェリアは、各地で治安上の課題があり、我々の活動と生活も地域に応じた安全対策が必須で、自由な散策は難しいが、普段の街や村は活気はあるが平穏で、短い滞在でも多様な民族の生活や食文化が垣間見られた。(2025 年 11 月 小島)